

富山スガキ株式会社

2024 年度環境経営レポート

(対象期間:2024年4月1日～2025年3月31日)



作成日:2025/4/18

富山スガキ株式会社 環境経営方針

＜基本理念＞

富山スガキ㈱は、富山県の中心に位置し、東には国際的観光地北アルプス立山、西には一級河川神通川の清流があるすばらしい環境に恵まれています。地球規模ではオゾン層破壊・地球温暖化等が問題視され、環境との共生意識が叫ばれている中、豊かな郷土の環境保全に貢献すべく、事業活動を通じて発生する環境負荷の低減に取り組めます。

＜行動指針＞

1. 具体的に次のことに継続的に取り組めます。

- ①電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ②使用原材料の省資源、廃棄物の3R(減量、再使用、再生利用)の推進
- ③水資源の節水
- ④有害な化学物質の削減
- ⑤環境に配慮した資材・製品の購入
- ⑥環境負荷低減につながる製品の開発と普及推進
- ⑦ミスロスの削減による環境負荷低減

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

制定日：2015年11月10日

改定日：2025年3月10日

代表取締役社長 須垣 貴雄

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
富山スガキ株式会社
代表取締役社長 須垣 貴雄
- (2) 所在地
本社 富山県富山市塚原23番地1
立山工場 富山県中新川郡立山町塚越234番2
東京営業課 東京都中央区日本橋本町3-4-5
東海営業課 愛知県一宮市本町4-1-3
大阪営業課 大阪府大阪市中央区谷町9-2-29
滋賀営業課 滋賀県甲賀市水口町本町3-2429-2
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 信頼性保証本部長 花田 光幸 TEL:076-429-3553
担当者 信頼性保証本部長 花田 光幸 TEL:076-429-3553
- (4) 事業内容
「医薬品パッケージ・添付文書・ラベル・商業印刷物の企画・設計及び製造」
- (5) 事業の規模
年商 62億48百万円

	本社・工場	立山工場	東京営業課	東海営業課	大阪営業課	滋賀営業課
従業員	250名	58名	13名	2名	7名	2名
延べ床面積	13,721㎡	7,859.32㎡	227㎡	84㎡	98㎡	75㎡

- (6) 事業年度 2024年4月1日～2025年3月31日

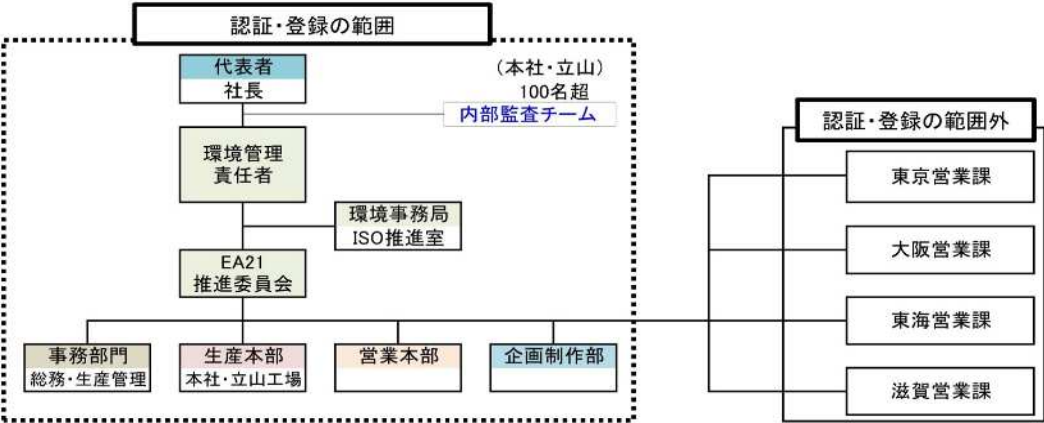
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 富山スガキ株式会社 本社・工場、立山工場（サイト認証）
活動： 医薬品パッケージ・添付文書・ラベル・商業印刷物の企画・設計及び製造

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	4,178,195	3,935,651	3,744,531	3,465,472	3,517,717
産業廃棄物排出量	トン	3,881	3,807	3,926	4,150	4,464
総排水量	m ³	11,976	10,520	9,046	9,950	9,851

□取組体制(認証範囲)



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境活動レポートの承認

	役割・責任・権限
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理、 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認と承認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成と確認 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知
環境事務局 (ISO推進室)	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) ・環境目標・環境活動計画書を作成
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成とテスト、訓練を実施、記録の作成及びレビュー ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□環境目標及びその実績及び環境活動の取り組み計画と評価

◆次年度の取り組みについては、今年度の取り組み内容と同じとする。

(本社工場)

管理項目			今年度の取り組み内容 (環境管理責任者)	
電力の削減			(今年度の取り組み)	
基準年度実績 2017年 21.92 CO2/通し数(kg/千枚) 二酸化炭素排出係数0.63 2024年度目標 基準年度比96% 削減率 -4.0% 21.04 CO2/通し数(kg/千枚)	2024年度		・原単位の向上(時間当たり通し数) ・省エネ設備の導入 ・生産機械の設備 ・生産の効率化 ・ミスロスの削減 ・空調温度の適正化 (取組み結果とその評価) 立山工場での生産ライン増設により、立山に生産がシフトし始めており、本社工場での電力使用量の増加が抑えられている。しかし、通し数(千枚)あたりのCO2排出量では前年度より増加しており、目標に対しても達成できていない。時間当たりの作業効率の改善を、本社工場では生産部各課で意識して取り組む必要がある。	
	目標	実績		
	CO2/通し数(kg/千枚)	CO2/通し数(kg/千枚)		
	21.04	22.54		
	目標達成率	93.4%		
削減率 21.04 CO2/通し数(kg/千枚)	2023年比	102.0%	(取組み結果とその評価)	
	総量	2511446kg-CO2		
中長期目標				
2025年度目標	20.93 CO2/通し数(kg/千枚)	95.5%		
2026年度目標	20.82 CO2/通し数(kg/千枚)	95.0%		
自動車燃料の削減			(今年度の取り組み)	
基準年度実績(ガソリン) 2017年 101,053 kg-CO2 2024年度目標 基準年度比96% 削減率 -4.0% 97,011 Kg-CO2	2024年度		・効率的なルートで配送 ・エリア別営業活動の見直し ・リモートワークの運用 ・CRM(PowerEgg)の見直し (取組み結果とその評価) 目標に対しては達成している。セールス代行の導入などにより、より効率的な営業活動ができれば、更に成果は出ると考えます。	
	目標	実績		
	kg-CO2	kg-CO2		
	97,011	51,774		
	目標達成率	187%		
削減率 97,011 Kg-CO2	2023年比	89%	(取組み結果とその評価)	
中長期目標				
2025年度目標	96,506 kg-CO2	95.5%		
2026年度目標	96,000 kg-CO2	95.0%		
廃アルカリ(PS廃液)			(今年度の取り組み)	
基準年度実績 2017年 3,720 kg 2024年度目標 基準年度比74% 削減率 -26.0% 2,753 kg	2024年度		・ミスロスの削減 ・現像レス(無処理版)の立山導入(運用開始) (取組み結果とその評価) 2024年度は回収のタイミングが1回/年となったため、目標に対して達成となっている。しかし、立山工場では既に現像レス版を導入、運用しており、その結果で廃液の排出量"0"を達成している。本社工場においても、幾つかの課題をクリアして排出量"0"を目指す。	
	目標	実績		
	kg	kg		
	2,753	1,450		
	目標達成率	190%		
削減率 2,753 kg	2023年比	47%	(取組み結果とその評価)	
中長期目標				
2025年度目標	2,716 kg	73.0%		
2026年度目標	2,678 kg	72.0%		

廃酸(接着廃液)		—		
基準年度実績		目標	実績	
2012年	kg	kg	kg	
2021年度目標		0	0	
基準年度比%		目標達成率	#DIV/0!	
削減率 %				
0 kg				
※接着廃液処理装置の導入により、改善された状態を維持できているため、管理目標から外している。 処理装置の維持管理については担当課で継続して管理を行っている。				
廃油(水性ニス廃液)		2024年度		(今年度の取り組み) ・ミスロスの削減 ・予定組の改善(生産の効率化) (取組み結果とその評価) 排出量の目標に関しては達成しています。立山工場の生産ライン増設に伴っての本社工場から立山工場へ生産移管した製品による影響によるものと考えます。
基準年度実績		目標	実績	
2017年	68,140 kg	kg	kg	
2024年度目標		64,733	44,610	
基準年度比95%		目標達成率	145%	
削減率	-5.0%	2023年比	90%	
64,733 kg				
中長期目標				
2025年度目標	64,392 kg	94.5%		
2026年度目標	64,052 kg	94.0%		
廃油(残肉)		2024年度		(今年度の取り組み) ・ミスロスの削減 ・予定組の改善(生産の効率化) ・適正調肉量の検証(インキ消費量からのフィードバックによる) (取組み結果とその評価) 印刷課調肉係では残肉量の情報をデータベース化し、今回の調肉時に役立てる事で、最適量の調肉に努めることで、印刷課からの残肉の排出量低減に努めている。この取り組みは2024年度の社内社員表彰においても取り上げられ、評価を受けている。
基準年度実績		目標	実績	
2018年	43.39 g/千枚	g/千枚	g/千枚	
2024年度目標		40.79	39.62	
基準年度比94%		目標達成率	103%	
削減率	-6.0%	2023年比	112%	
40.79 g/千枚		総量	7,340kg	
中長期目標				
2025年度目標	40.35 g/千枚	93.0%		
2025年度目標	39.92 g/千枚	92.0%		
混合廃棄物		2024年度		(今年度の取り組み) ・ミスロスの削減 ・備品の廃棄管理 ・ゴミ分別の教育と廃棄物の内容と廃棄方法の監視 (取組み結果とその評価) 前年度の排出量までには至らなかったが、目標に対しては未達成の結果となりました。設備の導入や修繕に伴う工事やレイアウト変更等が発生すると排出量が増加するため、外部の廃棄物置場の状態を鑑みながら注意喚起を続けます。
基準年度実績		目標	実績	
2018年	3,630 kg	kg	kg	
2024年度目標	基準年度比64%	2,323	4,460	
削減率	-36.0%	目標達成率	52%	
2,323 kg		2023年比	79%	
中長期目標				
2025年度目標	2,287 kg	63.0%		
2026年度目標	2,251 kg	62.0%		
木型(木くず)		2024年度		(今年度の取り組み) ・ミスロスの削減 ・木型の管理の精度アップ(立山工場との情報連携) (取組み結果とその評価) 2000kgを超える廃棄が3回/年あり、目標に対してオーバーとなった。木型の使用管理及び製品の発注サイクルの影響から止むを得ない面もあります。立山工場へ移管した製品分の影響により、将来的には本社工場分の廃棄数は全体的に一定量下がるものと考えます。
基準年度実績		目標	実績	
2012年	1,830 kg	kg	kg	
2024年度目標		1,748	6,440	
基準年度比95.5%		目標達成率	27%	
削減率	-4.5%	2023年比	161%	
1,748 kg				
中長期目標				
2025年度目標	1,739 kg	95.0%		
2026年度目標	1,729 kg	94.5%		
水道水の削減		2024年度		(今年度の取り組み) ・立山工場との生産スケジュールの調整 (取組み結果とその評価) 目標は達成する事はできたが、2月の敷地内の融雪装置の揚水ポンプの故障により、水道水を融雪に使用した為、前年度比では増加の結果となりました。故障したポンプについては交換が決定しており、2025年度は正常値に戻るものと考えます。
基準年度実績		目標	実績	
2016年	8,984 m ³	m ³	m ³	
2024年度目標		8,894	8,693	
基準年度比99%		目標達成率	102%	
削減率	0.1%	2023年比	109%	
8,894 m ³				
中長期目標				
2025年度目標	8,804 m ³	98.0%		
2026年度目標	8,714 m ³	97.0%		

PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)
化学物質の種類:1,2,4-トリメチルベンゼン		目標	実績	・代替資材への切り替え調査 ・原単位見直しへの切替え調査 ・今後の受注仕様の変化を注視 (取組み結果とその評価) 総使用量においては約1割減少したが、通し数換算目標では達成できなかった。立山工場への製造移管状態を注視しつつ、代替製品の検討も並行して続けていく必要がある。
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	
2016年 2.49 g/千枚		2.39	3.24	
2024年度目標 基準年度比96.0%		目標達成率	74%	
削減率 -4.0%		2023年比	91%	
2.39 g/千枚		総量	600kg	
中長期目標				
2025年度目標 2.38 g/千枚 95.5%				
2026年度目標 2.37 g/千枚 95.0%				
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)
化学物質の種類:1,3,5-トリメチルベンゼン		目標	実績	・代替資材への切り替え調査 ・原単位見直しへの切替え調査 ・今後の受注仕様の変化を注視 (取組み結果とその評価) 総使用量においては約1割減少したが、通し数換算目標では達成できなかった。立山工場への製造移管状態を注視しつつ、代替製品の検討も並行して続けていく必要がある。
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	
2016年 0.550 g/千枚		0.528	0.81	
2024年度目標 基準年度比96.0%		目標達成率	65%	
削減率 -4.1%		2023年比	91%	
0.528 g/千枚		総量	184.23kg	
中長期目標				
2025年度目標 0.525 g/千枚 95.5%				
2026年度目標 0.523 g/千枚 95.0%				
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)
化学物質の種類:キシレン		目標	実績	・代替資材への切り替え調査 (取組み結果とその評価) 目標は達成、2023年度比も減少している、フォーリフトのEV化により、残る排出要素はスクリーン洗浄液になる。
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	
2016年 0.540 g/千枚		0.518	0.116	
2024年度目標 基準年度比96.0%		目標達成率	445%	
削減率 -4.0%		2023年比	58%	
0.518 g/千枚		総量	23.56kg	
中長期目標				
2025年度目標 0.516 g/千枚 95.5%				
2026年度目標 0.513 g/千枚 95.0%				
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)
化学物質の種類:2アクリル酸ヘキサメチレン		目標	実績	・代替資材への切り替え調査 ・原単位見直しへの切替え調査 ・今後の受注仕様の変化を注視 (取組み結果とその評価) 総量では減少しているが、目標に対する達成率もほぼ横這いとなる。排出要因となる資材が広範囲(ニス・フレキシ)のため、代替資材の検討を続ける。
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	
2016年 0.423 g/千枚		0.474	0.691	
2024年度目標 基準年度比112.0%		目標達成率	69%	
削減率 112.0% ※目標変更		2023年比	101%	
0.474 g/千枚		総量	127.94kg	
中長期目標				
2025年度目標 0.472 g/千枚 111.5%				
2026年度目標 0.470 g/千枚 111.0%				
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)
化学物質の種類:トルエン		目標	実績	・リモートワークの導入 ・エコドライブの推進 (取組み結果とその評価) 前年比の使用量及び今年度の目標に対しては達成しています。フォーリフトのEV化により、他の排出要因はあるものの、排出量そのものは減少すると考えます。
基準年度実績		kg	kg	
2012年 91.00 kg		64.25	23.97	
2024年度目標 基準年度比70.6%		目標達成率	268%	
削減率 -29.4%		2023年比	64%	
64.25 kg				
中長期目標				
2025年度目標 63.34 g 69.6%				
2026年度目標 62.43 g 68.6%				
グリーン購入の推進		(今年度の取り組み)		
基準年度実績		・代替資材(グリーン購入対象)への切り替え		
2014年 -		・切り替え状況の継続監視 (取組み結果とその評価) 主に事務資材などが中心となるが、サステナブル志向もありグリーン購入対象商品は増えている。しかし、購入物の内容や必要性によっては対象から外れる場合もあるため、継続して監視を行っている。		
維持目標の為、数値設定なし				
中長期目標				
2022年度目標 取組継続				
2023年度目標 取組継続				

(立山工場)

管理項目			今年度の取り組み内容 (環境管理責任者)	
電力の削減			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2019年	23.34 CO2/通し数(kg/千枚)	CO2/通し数(kg/千枚)	CO2/通し数(kg/千枚)	CO2/通し数(kg/千枚)
二酸化炭素排出係数0.63			22.52	21.65
2024年度目標			目標達成率	104%
基準年度比96.5%			2023年比	93.5%
削減率 -3.5%			総量	1,296,783kg-CO2
22.52 CO2/通し数(kg/千枚)				
中長期目標				
2025年度目標	22.40 CO2/通し数(kg/千枚)	96.0%		
2026年度目標	22.29 CO2/通し数(kg/千枚)	95.5%		
廃アルカリ(PS廃液)			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2019年	1,116 kg	kg	kg	kg
2024年度目標			0	
削減率			目標達成率	
kg			2022年比	
中長期目標				
廃油(水性ニス洗浄廃液・接着廃液)			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2019年	7,898 kg	kg	kg	kg
2024年度目標			7,622	6,698
基準年度比96.5%			目標達成率	114%
削減率 -3.5%			2023年比	115.9%
7,622 kg				
中長期目標				
2025年度目標	7,582 kg	96.0%		
2026年度目標	7,543 kg	95.5%		
廃油(残肉)			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2019年	44.59 g/千枚	g/千枚	g/千枚	g/千枚
2024年度目標			43.03	44.97
基準年度比96.5%			目標達成率	96%
削減率 -3.5%			2023年比	104.1%
43.03 g/千枚			総量	5,638kg
中長期目標				
2025年度目標	42.81 g/千枚	96.0%		
2026年度目標	42.58 g/千枚	95.5%		
混合廃棄物			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2018年	650 kg	kg	kg	kg
2024年度目標 基準年度比96.5%			627	748
削減率 -3.5%			目標達成率	84%
627 kg			2023年比	106.9%
中長期目標				
2025年度目標	624 kg	96.0%		
2026年度目標	621 kg	95.5%		
水道水の削減			2024年度	
基準年度実績			目標	実績
2019年	637 m ³	m ³	m ³	m ³
2024年度目標			615	910
基準年度比96.5%			目標達成率	68%
削減率 -3.5%			2023年比	112.5%
615 m ³				
中長期目標				
2024年度目標	612 m ³	96.0%		
2025年度目標	608 m ³	95.5%		

PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)	
化学物質の種類:1,2,4-トリメチルベンゼン		目標	実績	・代替資材への切り替え	
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	・原単位の向上	
2019年 2.05 g/千枚		1.98	1.00	(取組み結果とその評価)	
2024年度目標 基準年度比96.5%		目標達成率	198%	前年度に対して70.5%、目標に対しては198%の達成となった。立	
削減率 -3.5%		2023年比	70.5%	山工場の製造ラインの特性と生産管理による生産予定の組立が	
1.98 g/千枚		総量	125kg	功を奏した結果となった。2025年度は更なる効率と原単位の向	
中長期目標				上を目指すことで数値の良化を維持する。	
2025年度目標 1.97 g/千枚 96.0%					
2026年度目標 1.96 g/千枚 95.5%					
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)	
化学物質の種類:1,3,5-トリメチルベンゼン		目標	実績	・代替資材への切り替え	
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	・原単位の向上	
2019年 0.511 g/千枚		0.494	0.269	(取組み結果とその評価)	
2024年度目標 基準年度比96.5%		目標達成率	183%	前年度に対して70.5%、目標に対しては198%の達成となった。立	
削減率 -3.5%		2023年比	76.1%	山工場の製造ラインの特性と生産管理による生産予定の組立が	
0.494 g/千枚		総量	33.75kg	功を奏した結果となった。2025年度は更なる効率と原単位の向	
中長期目標				上を目指すことで数値の良化を維持する。	
2025年度目標 0.491 g/千枚 96.0%					
2026年度目標 0.489 g/千枚 95.5%					
PRTR該当物質の削減		2024年度		(今年度の取り組み)	
化学物質の種類:2アクリル酸ヘキサメチレン		目標	実績	・代替資材への切り替え	
基準年度実績		g/千枚	g/千枚	・原単位の向上	
2019年 20.281 g/千枚		19.470	16.089	(取組み結果とその評価)	
2024年度目標 基準年度比96.0%		目標達成率	121%	前年度比で83.9%、目標に対して121%の結果となった。受注仕様	
削減率 -4.0%		2023年比	83.9%	によるものでコントロールは難しいが、①作業効率の向上:工程	
19.470 g/千枚		総量	36.45	の最適化による材料使用量削減。②予備紙のさらに厳格な管	
中長期目標				理:必要最低限の枚数で作業する仕組み。③UVコートニス of 代	
2025年度目標 19.368 g/千枚 95.5%		替版:低排出量の製品の選定。④教育と意識向上:従業員の環			
2026年度目標 19.267 g/千枚 95.0%		境負荷軽減への意識向上に努める。			
グリーン購入の推進		(今年度の取り組み)			
基準年度実績		・代替資材(グリーン購入対象)への切り替え			
2014年 -		(取組み結果とその評価)			
維持目標の為、数値設定なし		阻害要因として考えられる、①選択肢の不足、②コストの問題、③既存の購入習慣、④管理体制の弱に対する対応を、社員や購買担当等に依頼し、改善を図っていく。			
中長期目標					
2022年度目標 取組継続					
2023年度目標 取組継続					

※環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の取組結果とその評価は上記に示したとおりである。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	産業廃棄物(故紙、金属くず、廃プラ、廃液、廃油等)
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
消防法(危険物)	有機溶剤の保管
水質汚濁防止法・下水道法	特定施設の設置
フロン排出抑制法	業務用空調機、チラー
省エネルギー法	各事業所のエネルギー使用量

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

電力使用においては、本社工場は2023年度比で97.2%と減少し、立山工場は117.7%と増加している。立山工場の増加は、2023年10月に行った生産ラインの稼働によるものだが、導入した生産ラインの生産性の高さから、通し数当りのCO2排出量については改善されている。

また、立山工場では2022年12月より再生エネルギーを総使用量の12%で導入しているが、今後の電力使用の増加を見据え、オンサイトPPA(立山)+オフサイトPPA(本社)の導入を進め、顧客のサステナブル志向に沿った生産体制への期待にも応えられるようにハード面での強化を図る。

2025年度は時間当たりの生産効率の改善に注力を進める。これはOEE(設備総合効率)による管理について準備を進め、予定されている生産スケジュールの改善と合わせて効率改善を図っていくものである。

立山工場では2024年度より現像レスシステム(無処理版)を導入しており、これにより水の使用や現像廃液の排出量のゼロ化を実現した。現在は本社工場の導入に向けてテストを進めている。

残る課題となるのは化学物質の使用であるが、製品の仕様や作業性と連動している要素もあり苦戦を強いられている。この課題については、新しい技術や新資材の調査やテストを進め、環境負荷の低減につながるものを導入していくことで環境負荷低減に繋げて行く必要がある。

以 上